

東遊園地にぎわい拠点施設運営事業者選定について

■事業者選定経緯

＜東遊園地に求めるにぎわい＞

東遊園地を「市民が育てる公園」と位置付け、単なる集客ではなく、市民が日常的に豊かな時間を過ごすことで、公園だけでなく地域の価値を高める利用促進とする。

東遊園地における日常的なにぎわいや利活用の創出を目的として、Park-PFI 制度を活用した民間事業者の公募を行ったところ、3グループの応募登録があり、その内1グループより事業提案書が提出された。

学識経験者等で構成する選定委員会において、事業計画などの提案内容を審査し、その結果をもとに本市が優先交渉権者（設置等予定者）を決定した。

（主なスケジュール）

- ・公募設置等指針の配布：8月26日（月）～8月30日（金）
- ・応募登録：9月2日（月）～9月6日（金）
- ・公募設置等計画の受付：10月21日（月）～10月25日（金）
- ・公募設置等計画の評価：11月11日（月）選定委員会

■選定理由

優先交渉権者（設置等予定者）の選定にあたっては、選定委員会において、全体計画や施設ごとの整備・管理運営・活用計画などを総合的に評価しました。

その結果、下記理由などから上記団体を候補者として選定しました。

◇これまでの社会実験の経験を活かした、市民との積極的な関わりが期待される事業計画となっている。

◇事業対象区域だけでなく、東遊園地全体を活用した事業展開が示されており、さらなるにぎわいの創出が見込まれる。

◇周辺のまちづくり計画との整合や、東遊園地全体の再整備との調整など、柔軟に対応できる体制が整っている。

（評価結果）

評価項目	配点	候補者
全体計画	35	24.70
施設ごとの計画	55	42.84
価格提案（事務局審査）	10	10.00
合計	100	77.54

（選定委員会委員）

氏名	所属
赤澤 宏樹	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授
天川 佳美	市民まちづくり支援ネットワーク事務局
岡村 修	公認会計士、税理士
嘉名 光市	大阪市立大学大学院 教授
永田 宏和	KIITO 副センター長
広脇 淳	神戸市建設局 公園担当局長
若松 謙一	神戸市企画調整局 副局長

THE NEXT STEP OF THE URBAN PARK 東遊園地の大きな可能性を実現するために

運営事業の提出にあたり、西洋式運動公園として1868年に完成してから、東遊園地が担ってきた役割と可能性を3つの視点でまとめます。



都心のオープンスペース

山と海にはさまれた東遊園地は、地理的にも都心中央に位置する貴重なオープンスペースです。今後の三宮再開発においても、インドア空間ではできない体験ができるユニークな場と位置づけられると同時に、周辺の都心の価値を高めることができる存在です。



記憶に満ちた公園

東遊園地は、開港以来の神戸の歴史が集まる公園。阪神淡路大震災の記憶が刻まれたところでもあり、神戸市民にとって特別な公園です。日常的な使い方を提案することによって、日ごろからもっと親しみながら過ごす、市民のアウトドアリビングへと進化する可能性もっています。



市民の参画

居留地の人びとがつくり、運営管理まで担っていた東遊園地は、市民が公園運営に関わった歴史もっています。2015年からは市民が神戸市役所と一緒に社会実験をはじめたこの公園には、市民が公共空間を育てる起点として、大きな可能性があります。

これらの東遊園地の可能性を踏まえ、都心の公園ならではの次の可能性を実現するため、プレイスメイキングに取り組みます。



※以下この計画書では特に断りがない限り、体験や学びを中心とした概ね数十人程度までの企画を「プログラム」、楽しむことを中心とした概ね数百人程度の企画を「イベント」と呼びます。

東遊園地の将来ビジョン みんなのキャンパス

開港以来、神戸の歴史の中心となってきた東遊園地は、近年は大きなイベントのときにはにぎわうものの、普段は訪れる人も少ない公園でした。この都心の公園の魅力を高めることによって、コンパクトで歩きやすいまちづくりと周辺のエリア価値向上に貢献できる。そう考えた有志によって2015年からスタートした社会実験を通して、多くの人が東遊園地の潜在的な可能性に気づくこととなりました。

今回の公園リニューアルとPark-PFIを活用した運営事業は、東遊園地の可能性を大きく発展させ、都心の魅力を高められる絶好のチャンスです。そのためには、市民のサードプレイスとして、普段から繰り返し訪れる市民が増えることが大切です。

大学のキャンパスのように日ごろから通い、さまざまな文化を学び体験することで、人びとが新しい価値を創造し、交流する未来を描いて、東遊園地全体を運営するうえでのコンセプトを「みんなのキャンパス」としました。

市民が集う東遊園地は、都市と自然を同時に楽しむ神戸らしいライフスタイルを体験できる場として、神戸を訪れる人びとがまっさきに訪れたい公園へと進化します。

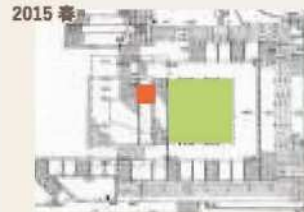
神戸の都心が生まれ変わる起点として、市民・地域・行政・企業が一体となったプレイスメイキングをはじめましょう。



「みんなのキャンパス」へと進化する東遊園地の中央で、様々な発信を担う拠点施設は、都心にある屋外空間の心地よさを一言で表現し、社会実験を通して定着した「URBAN PICNIC」(アーバンピクニック)と名づけます。

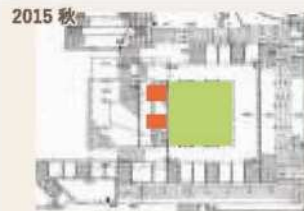
THE KNOWLEDGE FROM THE PILOT PROJECTS 配置計画の考察：これまでの社会実験を踏まえて

■ 芝生 ■ 仮設建築物(カフェ・ライブラリー等) ■ 仮設シェイド



2015年 第一回東遊園地パークマネジメント社会実験

特徴 120㎡の天然芝を設置・ファーマーズマーケット併催
考察 社会実験実施による公園滞在者の明確な増加傾向がみられた。芝生にカフェが正対する配置の優位性が確認された。芝生を眺められる、芝生周辺エリアのテーブル席が人気。ストックヤードや電源・上下水等のインフラの必要性。交流の起点としてのカフェスタッフの存在定義が確認された。



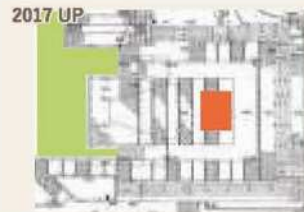
2015年 第二回東遊園地パークマネジメント社会実験

特徴 公園の広報の一元化への取組・ファーマーズマーケット併催。他主体によるプログラム受付～コーディネートの実施。小屋を2つに分け、自由に使えるシェイド空間が試行された。
考察 雨天時などに対するシェイドの必要性が把握された。書架、ハンモックや卓球台が滞在促進効果を持つと確認された。プログラム運営のための基盤として必要な項目が把握された。



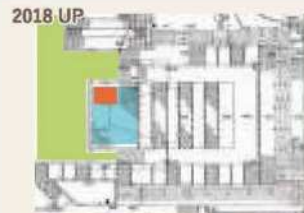
2016年度 アーバンピクニック

特徴 グラウンドの芝生化・数ヶ月にわたる初の長期社会実験。仮設シェイドの設置・芝生の演奏会スタート
考察 芝生広場のステージ性と芝生の多様な使いかたが把握された。日射と降雨に対するシェイドの重要性が把握された。舗装広場の利用促進のため、使い方を提案する必要性が示された。プログラム主催者・利用者のニーズが把握された。



2017年度 アーバンピクニック

特徴 公園通過者を意識し、芝生とバビリオンに距離がある配置。公園を育てる市民のゆるやかな組織化を企画(フレンズ)
考察 通過者を滞在させることの難しさを把握(公園利用者との違い)。ステージ性の高い芝生から離れる配置デメリットが理解された。正面性がないキッチン・カウンターの運用の難しさが把握された。滞在を促すためには、書架が外部に面する必要性が理解された。



2018年度 アーバンピクニック

特徴 芝生広場に最も近接した配置とシェイド設置を試行。将来的に定期開催できる有望プログラム・貸切利用の試行。芝生や広場上に露側のデッキを設置し、利用状況を確認
考察 シェイドによってプログラムの雨天中止が大幅に減少した。企業PRを兼ねたプログラム開催の可能性が把握された。テーブルを設置することによる飲食滞在の増加が見られた。



2015年から5回にわたって開催されてきた社会実験の成果と課題認識を踏まえ、私たちの提案では以下のポイントを重視して、公募対象公園施設と特定公園施設を中心に配置を計画しました。

1. 拠点施設の立地

公園全体の活性化をめざすには、性格が違うステージ(芝生広場など)に近接正対し、各種アクティビティのハブとなることが重要。

2. 芝生とその周囲の「見る一見られる」関係

芝生のサイズが小規模であったとしても、周囲から芝生内部を見通せるポイントを設けることで魅力ある芝生の計画は充分に可能。

3. シェイドの必要性

日照と降雨を避け、天候不順の際にも迷わずにイベントの準備を進めるためには、シェイドの存在が重要。

4. サブステージとしての特定公園施設

芝生広場で大規模イベントが開催される時、会場として使われていない芝生でゆっくり過ごしたいというニーズは高い。

5. インフラの必要性

季節によって仮設店舗を増設したり、マーケットイベントを開催したりするときなど、上下水と電気のインフラ需要は高い。

6. カウンターの視認性

カフェスタッフがコミュニケーションを促進する役割を自然に果たすために、カウンターが公園内各所から視認できることが必要。

7. ライブラリーの重要性

人びとの滞在を自然に促すために、ライブラリーは大きな役割を果たす。また、卓球台やハンモックにも大きな効果あり。

8. 多様な規模の会場利用

数人の小規模から、数百人規模まで、多様な規模の会場として利用できることスペースをあらかじめ計画しておく。

9. 夜間景観づくり

他の場所では得られない夜間景観をつくることにより、公園の魅力を高めつつ、防犯性を高めることができる。

10. ヒューマンスケープ(人々による風景づくり)

他者にとっても好ましいヒューマンスケープづくりに、芝生上のイスやデッキなどは有効。シャボン玉やチョークなども活用することができる。

PERFORMATIVE CORE FOR PLACEMAKING 東遊園地全体を生かす、プレイスメイキングの拠点

平日も休日も、大きなイベントの時でも、みんなが自由に公園を訪れ、快適に過ごし、創造的な体験に参加することができる「みんなのキャンパス」を東遊園地で実現するために、公園の中央に公募対象公園施設と特定公園施設を集約して配置します。
フラワーロードに並行する南北からのアクセス、旧居留地をはじめとする西側からのアクセスの交わる地点で、歩行者の流れを自然に誘いつつ、公園全体での多様なプログラムに出会う機会を創出するプレイスメイキングの心臓部となります。

公園を訪れるみんなが
プレイスメイカー
になる仕掛け

東遊園地を訪れ、通過する人々の結節点となる中央部に「にぎわい拠点施設（公募対象公園施設・特定公園施設）」を集約して配置します。

公募対象公園施設 (URBAN PICNIC)

建築面積：292㎡

様々なアクティビティのハブとして機能する施設で、大きなシェイド下の連続する空間にカフェ、屋内イベントスペース、小さなライブラリーを配置しました。南側のテラスや、軒下空間によって公園空間との連携を強化します。



特定公園施設

敷地面積：978㎡

公募対象公園施設の周囲を取り巻く形で公園全体の活動をサポートし強化するランドスケープとして特定公園施設を提案します。芝生ガーデンはステージを持つ楕円形の広場で、芝生ひろばを北側に拡張します。東側の並木に沿ったアウトドライブラリーは、並木道に知的な豊かさを与えます。三宮駅方面と旧居留地からのアプローチ（北・西）は歩行者を明快に誘導し、イベント時のポップアップにも対応したスペースです。テラスは東西の園地をつなぐ寛げる空間です。



アクセス・回遊性の向上
にぎわい拠点施設の配置
によって、東遊園地を訪
れ、通過する歩行者の動
線はより明快になります。

芝生ひろば

これまでの社会実験を通して市民のくつろぎの場所として育ってきた場であり、大型イベントの会場ともなる。

虹の泉・豊かなみどりゾーン

都心の貴重なみどりとして、落ち着いて過ごせる場所とします。

メタセコイア並木・シンボル緑陰

シンボル景観となる都心のみどり

慰霊と復興のモニュメント

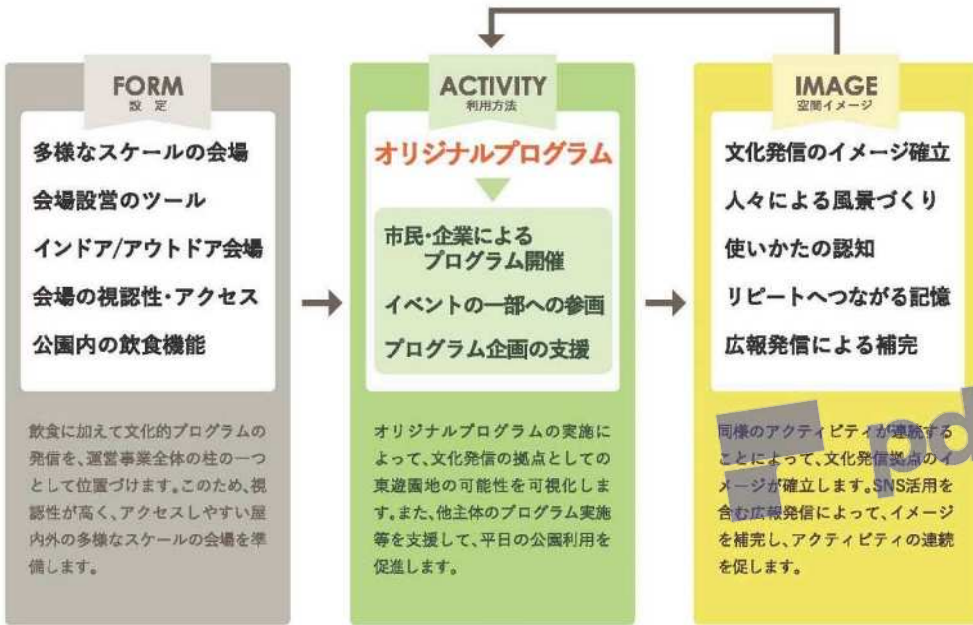
神戸市民にとって記憶を継承する大切な場所。モニュメント前の広場空間の新設が望ましいと考えます。



LIBERAL ARTS FOR DAILY USE OF THE PARK

管理運営計画:文化の拠点づくりが、日常的なにぎわい創出へ

かつて閉塞的な都市空間のマイナス面を補完し、労働力を再生産(レクリエーション)する場として捉えられていた公園は、いまや都市の創造性を高め、人びとをつなぐといった役割が期待されています。
東遊園地の歴史的・立地的な特徴を活かし、誰もが気軽に参加できる文化の発信地として育てていくことによって、平日の日中など、日常的なにぎわいを創ります。



飲食機能の充実

- 店内から芝生まで、多様な場所で飲食を楽しむカフェテリア(セルフサービス方式)
- カフェ利用からデザイナー、繁忙日まで、幅広いニーズに対応する充実したキッチンスペース
- 食卓、パーティーなどの施設利用に対応し、会場としての東遊園地の魅力向上
- デッキでのBBQや芝生に面した開放的なカフェなど、園地と一体化した話題性の高い空間

学びのプログラム

- 芝生等に面した複数の小会場を運用して、文化的・体験的な学びのプログラムを開催
- 学びのコミュニティや体験型プログラムを開催する市民・起業家等のネットワークを活用
- 市民が日常的に通うキャンパスとすることで、平日日中の利用率向上を実現
- 園地から視認性が高いオープンな会場。参加のハードルが低い公園らしい学びの場づくり

FUNDAMENTAL FACTORS

公園利用を促す基盤

公園利用者の利便増進の基盤としての飲食事業と、学びのプログラムをはじめとする各種プログラムのためのスペース事業を2本の柱として、事業を構築しています。限られた施設面積のなかで、プログラムや雨天対応のためのスペースを確保しつつ、繁忙期の飲食提供に対応するため、両方の事業に利用可能な空間を複数確保し、柔軟に運用しつつ相乗効果を高めます。



開催イベント・プログラム

※現時点で想定しているイベント・プログラムから例示しました。

土日休日への展開		
<p>自主・共同 <input type="checkbox"/> 未実施</p> <p>音楽フェア</p> <p>時間帯 終日 頻度 年数回</p> <p>時間帯 大規模 場所 一般園地</p> <p>時間帯 来園のきっかけに、一般園地も使った大規模イベントを企画。</p>	<p>自主・共同 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>ナイトピクニック</p> <p>時間帯 夕方 頻度 夏期毎月</p> <p>時間帯 中規模 場所 特定公園施設</p> <p>時間帯 夕方の公園を楽しむ、音楽と複数店舗によるナイトイベント。</p>	<p>自主・共同 <input type="checkbox"/> 未実施</p> <p>オープンカフェイベント</p> <p>時間帯 終日 頻度 春・秋</p> <p>時間帯 中規模 場所 特定公園施設</p> <p>時間帯 芝生や並木にテーブルを展開したオープンカフェイベント。</p>
<p>自主・他主体 <input type="checkbox"/> 未実施</p> <p>マーケット</p> <p>時間帯 数時間 頻度 毎週</p> <p>時間帯 中規模 場所 園地各所</p> <p>時間帯 既存マーケットと連携するほか、魅力あるマーケットを開発。</p>	<p>他主体 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>企業PRイベント</p> <p>時間帯 終日 頻度 月1回</p> <p>時間帯 中規模 場所 特定公園施設</p> <p>時間帯 一般利用者にとってポジティブな体験として企業PRを展開。</p>	<p>他主体 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>パーティー</p> <p>時間帯 夕方 頻度 随時</p> <p>時間帯 小規模 場所 屋内内外各所</p> <p>時間帯 誕生日会などプライベートな集いに使えるスペースを複数確保。</p>

学びのプログラム		
<p>自主 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>芝生の演奏会</p> <p>時間帯 夕方 頻度 月2回</p> <p>時間帯 中規模 場所 特定公園施設</p> <p>時間帯 器楽演奏を中心とした無料のオープンエア演奏会。</p>	<p>自主 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>セミナー</p> <p>時間帯 数時間 頻度 毎週</p> <p>時間帯 小規模 場所 施設内</p> <p>時間帯 主にリベラルアーツに関するセミナーを定期開催。</p>	<p>自主・他主体 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>青空ヨガ/青空フラ</p> <p>時間帯 午前 頻度 毎週</p> <p>時間帯 小規模 場所 特定公園施設</p> <p>時間帯 ヨガやフラは雨天時には施設内のホール等に移動して開催可能。</p>
<p><input type="checkbox"/> 未実施</p> <p>クッキングスクール</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>ライブラリー交流会</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>大学・専門学校のゼミ利用</p>
<p><input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>園地・居留地のガイドツアー</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>楽器体験プログラム</p>	<p><input type="checkbox"/> 未実施</p> <p>アート展示会/ギャラリー</p>
<p><input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>自然・環境学習プログラム</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>企業のミーティング利用</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 実施済</p> <p>クラフト/創作プログラム</p>

BIG TARP : A PLACE FOR THE NEXT PARK LIFE 様々な活動を受け入れるおおらかなタープ

にぎわい拠点施設の中核をなすのは、公募対象公園施設(URBAN PICNIC)。カフェカウンターを建物の中央に据え、それらを取り囲む様に広がるタープの様な大屋根(シェイド)の下に連続的に広がる空間では、コーヒーや食事を楽しむだけでなく、レクチャーやワークショップなど、様々なプログラムを並行して行なうことができます。東の並木側からはアウトドアライブラリーが木々の間に見え隠れし、静かな時間を過ごすことができます。施設は、全方向に園地の特性に合わせた表情をもち、バックヤードを見せることなく、人々を迎え入れます。

空間利用の
フレキシビリティ
時間、天候、ニーズ、管理運営に合わせて、カフェスペースと貸しスペースの割合を調整できます。これにより、大小様々な規模のイベントに対応しています。

